保育計画成果報告書

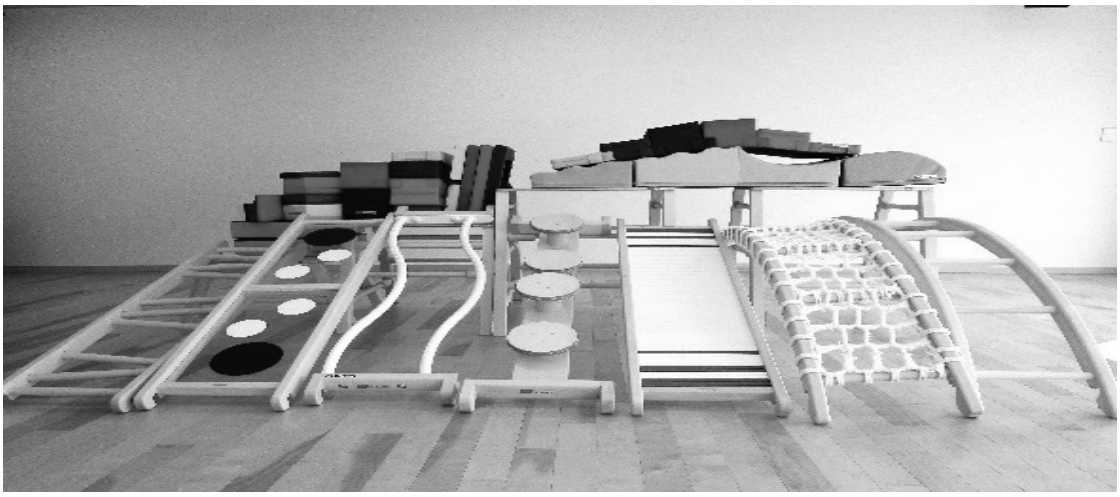
法人名等	社会福祉法人　のぞみ会
施設名	浮田とちのみこども園
報告者（役職）	横山　真紀（教頭）
住所・連絡先	岡山県岡山市東区沼 1188 番地 1
	☎　　086-206-1511 E-mail　tochinomi@konominoki.ed.jp

○タイトル（保育計画）

楽しく動いて、どんどん育て、体と心!!

○主な助成備品

シンキングシリーズ組み替え室内遊具、やわらかいだん、組み替えステップ、 アクティブプレイクッション



1.　保育計画策定の目的

本園は、2021 年度に開園したばかりということで、遊具が十分に揃っていないため、広い遊戯室に様々な運動遊具を設置することで、天候にかかわらず活動の幅が広がり、いろいろな年齢の子どもたちが、意欲的に楽しんで体を動かすことに取り組めるようになると考えました。

0，1 歳児は、低年齢児用ジム・ソフトを室内に設置することで、日常的に楽しんで体を動かすことに取り組め、段差や斜面の上り下り、橋渡りなど体の動きを多様化させることができ、体幹が鍛えられます。

3歳以上児は、運動教具シンキングを組み合わせることで、一人ひとりの運動機能の向上と、「やってみたい」という意欲を養いながら、「できた」という満足感や達成感も経験できます。運動遊具の遊びを通して、身体の発達だけでなく、言葉や意欲、自信などの内面や社会性や協調性などの発達にも繋がると考え、運動遊びの充実を目的としました。

2.　具体的な実施内容

【0歳児】

室内に日常的に「プレイクッション」や「やわらかいだん」を設置したところ、四つん這いで登るのにちょうどよい斜面や段差でした。繰り返し上り下りすることで、よじ登る、滑る、乗り越える、向きを変えるなど、自然とバランスを取ることを身につけ、ひっくり返ることが少なくなりました。またソフトで安全な作りとなっていて、毎日消毒しても傷むことがありませんでした。

【1歳児】

斜面、段差などを組み合わせて、平衡感覚、体幹、バランスを養っていけるように設置するものを変化させ、室内アスレチックのように成長発達に合わせて組み合わせました。

シンキングの滑り台は、傾斜を上ったり、滑ったり、楽しみながら足腰を鍛えることができました。アクティブプレイクッションでは、ジャンプを楽しむことができ、初めは保育者に両手を繋いでもらってジャンプしていましたが、繰り返し遊ぶことで、一人で両足ジャンプができるようになるなど運動機能の向上が見られました。

【2 歳児】

発達に合わせてサーキット遊びを設定しました。個々の月齢や運動能力に配慮して援助を行うようにしました。何度も繰り返し挑戦することで、今までできなかったことができるようになったり、順番を理解し、並んで待てるようになったり、友達を真似てやってみたら楽しかったなど、サーキット遊びの経験が心身の成長の機会となりました。

【3 歳以上児】

シンキングの様々な組み合わせができる、高さが調節できるという利点を活かし、年齢や子どもの発達に合わせて、形を組み替えて遊ぶことができました。室内遊具なので、雨の日でもしっかり体を動かして遊ぶことができました。

太鼓橋やはしごなど水平や斜めに傾けるなど構成ができ、最初は恐る恐る四つん這いで渡っていた子も、慣れてくると立ったまま自分でバランスを取りながら渡ることができるようになり、バランス感覚を養っていけると感じました。

多数の組み合わせ方が可能なシンキングを使って課題に変化を持たせ、少し難しいことにもチャレンジしたいという気持ちが芽生えてきました。

3.　その成果と評価

3 歳未満児のクラスでは、室内に低年齢児用ジム・ソフトを設置し、「のぼる」「はねる「滑る」「超える」など運動遊びが日常的に繰り返し経験できるようにすることで、運動機能の発達だけでなく、順番を待つ、友達の模倣をして遊ぶなど社会性も育ってきました。

室内に設置することで、無駄に走り回ることが減り、動きが整理され、衝突などの危険も少なくなりました。

3 歳以上児では、大型の運動教具シンキングの基本的な使い方を繰り返し経験することで、順番を守ったり、ルールの大切さに気づいたり、コミュニケーションを深めることができました。また、サーキット形式で繰り返し遊べるようにすることで、「移動系」「平均系」「操作系」「非運動系」といった運動スキルをバランス良く身につけることができました。

縦割りクラスでのサーキット遊びでは、年長児がお手本となり、どんどん自信をつけて自己肯定感へと繋がっていけました。年下の子がいるとゆっくり進んであげたり、手を貸してあげたりと思いやりの気持ちも芽生えたようです。参観日に保護者にサーキット遊びを見てもらうことで、運動機能の成長だけではなく社会性や協調性などの育ちも見てもらう機会となりました。

子どもたちのサーキット遊びをし終えた満足そうな表情と「またしようね」という意欲的な言葉からもよい成果を感じています。

4.　今後の課題と展望

今回助成していただいた様々な運動遊具を生活の中に導入させていただき、どの年齢も日々、効果的に体を動かして遊ぶことができています。

0、1 歳児からの運動遊びをさらに充実させていき、心身共に成長していけるように、これからも運動遊びを継続していくことが大切だと考えています。

また、保育者がそれぞれの遊具の特徴を理解し、どんな組み合わせをすると遊びがどのように発展するか、子どもたちの発達にあった遊びの提供ができるように保育者の指導力を高めていくことが今後の大きな課題だと考えています。

子どもたちが「もっとやりたい」「こんなこともやってみたい」といった意欲を持って、生き生きと遊べる環境を作っていきたいと思います。

以上